

家づくりを物語に

Home with a Story

建築実例集

工房信州の家



contents

- 01 余白の家
- 02 キャンプするように人生を遊ぶ
- 03 のびやかに暮らす平屋の住まい
- 04 INDUSTRIAL MANISHIな雰囲気漂う家
- 05 趣味を思いきり楽しむ！DJブースのある家
- 06 本棚が家族の物語になる家
- 07 Barのある平屋
- 08 こぢんまりと、住みながらつくっていく家
- 09 北アルプスを愉しむ、ラク家事動線の家
- 10 山裾からの眺めを堪能する家
- 11 ペットと楽しむ、斜め土間の家
- 12 浅間山の山麓に佇む家



信州を楽しむ 豊かな住まい

まるで森の中にいるように深呼吸がしたくなる、良質な素材にこだわった住まい。さりげなく居心地の良い空間でありながら、次は何をしようかと楽しみを増すような暮らし。「信州を楽しむ 豊かな住まい」をキーコンセプトに、一棟一棟心を込めて作り上げてきた実例と、そこに住まうご家族の声を紹介します。



01

余白の家_平屋

中野市 T様邸



「使い方が決まったフツウの家にしたくない」。
家に余白があるからこそ豊かな暮らしが生まれる。
コンパクトな平屋でありながら
家族が日々、思い思いの場所でくつろぐことができる家。

竣工 2021年10月
敷地面積 316㎡ (96坪)
延床面積 84㎡ (25坪)
家族構成 夫婦・娘さん2人





平屋の南面の窓は土間サロンの地窓のみ。思い切り絞った一方で南東のブドウ畑に向けて開口を大きくした。土間サロンからつながるテラスは、BBQをしたり庭作業の合間にお茶を飲んだりと使い勝手が良い。(上)
二段下がりピットリビング。「リビングにゴロンとなりふと見上げると、真っ白な壁なんだけど、なんかカッコいいと思う」と奥様が話す。(下)



平屋のロフト部分は2人の娘さんの部屋。秘密基地のようで楽しい。(上)
室内干しもできるランドリールーム。スロップシンクは予洗いに便利。(下)

owner's voice

元々はこの場所にあった実家の離れをリフォームし、10年ほど暮らしており、不便はないものの、どこかアパートに住んでいるような感じがしていました。たまたまふらっと見に行った長野中央展示場の土間サロン。住む場所に困っていた訳ではありませんでしたが、夫婦共に気に入ってしまい、思い切って建替えを決意しました。

具体的なオーダーは家族みんなで料理ができるCUBEキッチンだけ。「2LDK、ダイニングテーブルやソファを置く」というようなよくある間取りは嫌だったので、「フツウの家、使い方が決まった家にしたくない」とだけ伝えてプロにお任せしました。担当スタッフはむしろそれを喜んでくれて様々な面白いプランを提案してくれました。家族が思い思いの場所に腰かけ、くつろぐことが出来る空間が気に入っています。広い土間サロンや二段下がりリビング空間も「使い方を決めていない」ので、それが余白のように感じ、自由に過ごせるのが楽しいです。唯一のオーダー、CUBEキッチンでは子供たちと色々な話をしながら料理したり、薪ストーブのオープンでパンを焼いたり…この家でおうち時間を満喫しています。



キッチン横の掘り込みニッチ棚は家のかたちとし遊び心を。背面棚にはお気に入りの小物がセンス良く並ぶ。

02

キャンプするように人生を遊ぶ

南信州 H様邸



東に南アルプス、西に中央アルプスが望める
お気に入りの景色に、テントを張ったような外観の平屋。
夫婦の描く「小屋っぽさ」を、フォームや素材で表し、
小屋ではない伸び伸びした暮らしができる家。



竣工 2021年11月
敷地面積 500㎡ (151坪)
延床面積 93㎡ (28坪)
家族構成 夫婦・犬

owner's voice

もともと愛知県に住んでおり、年に4、5回は長野県南部のキャンプ場に足を運んでいた私たち。山を下り、伊那谷の中へ身を置いてみると、南アルプスと中央アルプスがそびえていました。この南信州ならではの景色が格別に気に入り、さっそく町の提供する移住体験へ。半年間で移住の気持ちも固まり、いつか家を建てるつもりで、仮住まいからスタートしました。

担当してくれた営業スタッフは、「普通の家だったら要らない」と考えていた私たちの思いに寄り添って、土地探しからサポートしてくれました。

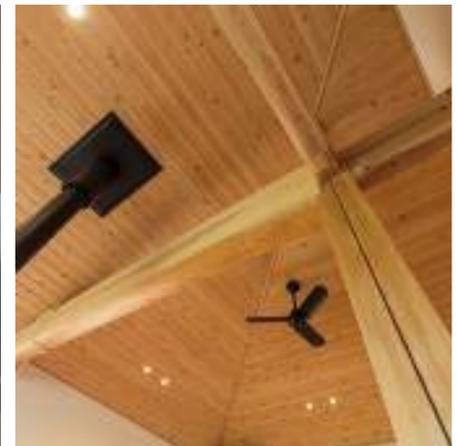
自然の中に身を置くキャンプが好きで、家にも景色に溶け込むような要素をたくさん取り入れ、外壁の板張りもその一つです。また、本物の木を、なおかつ県産材を積極的に使い、山を良くしているという考えにも共感しました。今は新しい家族（バーニーズ・マウンテンドッグ）も迎え、毎日キャンプしているような感覚で過ごしています。



床がコンクリートの土間サロン。黒色の天然土を混ぜたジョリパット（珪藻土）で仕上げた壁に、DIYで棚を設置。夫婦の趣味のキャンプギアを置き、メンテナンスも。



アカマツの梁に、ハンモックを吊るし、愛犬と一緒に。薪ストーブは一目ぼれしたAGNI-CC。（左）
キッチン背面には、大きな窓があり、光がたっぷり取り込める。窓外には、自分たちの畑が広がる。余裕のある土地には、ドックランも計画中。（右）



タープを張ったように屋根がかかる平屋で、広いデッキ部分はテントの前室みたい。第2のリビングとして積極的に活用できそう。（左）リビングの大きな掃き出し窓の先には、ご主人が自ら手掛けた10畳を超える広さのウッドデッキ。南アルプスを眺めながらの休憩タイムが格別と奥様。（中央）天井はサワラ、柱はヒノキ、梁がアカマツ、床がカラマツ。すべて長野県産材を使用。（右）

03

のびやかに暮らす平屋の住まい

安曇野市 A様邸



土間サロンの大きな窓から見晴らす安曇野の田園風景。
週末には窓の外に広がる景色を見ながらコーヒーを飲んだり、
家族が集まる夏休みにはみんなでかき氷をしたり。
心も身体も自然とのびやかになる暮らし。

竣工 2022年1月
敷地面積 662㎡ (200坪)
延床面積 90㎡ (27坪)
家族構成 夫婦





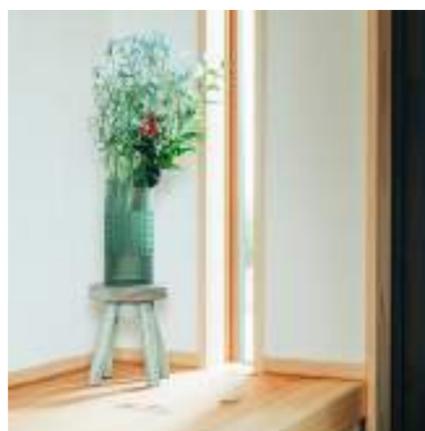
ひとつながりの大空間でありながら程よい段差があることで、空間に変化が生まれ単調に感じない。(上)
8人掛けの大きなダイニングテーブルは家族が集まる時にも重宝する。円卓と迷ったが、大好きな古牧展示場に寄せて正方形のデザインを選んだ。(下)



リビングとダイニングをゆるく区切る家具は伊那にある家具工房にオーダーしたもの。リビングまわりの収納も兼ねている。(上)

owner's voice

退職を機に、夫婦2人で快適に過ごせる家を建てたい、子どもの家族もよく遊びに来るので家族が集まれる大空間の家が良いなと思っていました。工房信州の家の、無垢材を使用していることや塗り壁の素材感に「本物」を感じていましたが、旧松本展示場の和のデザインは正直あまりピンと来ておらず…。県内各地の展示場をまわり、長野古牧展示場にたどり着いたんです。土間、ダイニング、リビングがひとつながりの大空間でありながら、段差でゆるく区切る感じが求めていたものと合致。土間サロンの二面が大きなガラスで外と繋がる点も気に入りました。当初から平屋希望でしたが、「古牧展示場を平屋で建てたい」という思いに変わりました。結局、古牧展示場は3回は見学に通いましたね(笑)。
夏休みには孫が遊びに来て、土間サロンでかき氷をつくりました。子どもはちょっと特別な空間で食べるかき氷を喜んでいたし、大人も室内だとなつ「汚さないで」と気を遣うけど、怒ることなく過ごせました(笑)。
土間とそれにつながる空間があることで、心も身体ものびやかに暮らすことができています。



細い縦型のFIX窓からやわらかな光が差し込む玄関。季節の花が家族を出迎える。(左)
リビングの室内窓はご主人のアイデア。壁に囲まれる落ち着いた空間でありながら閉塞感を感じさせない。(右)

04

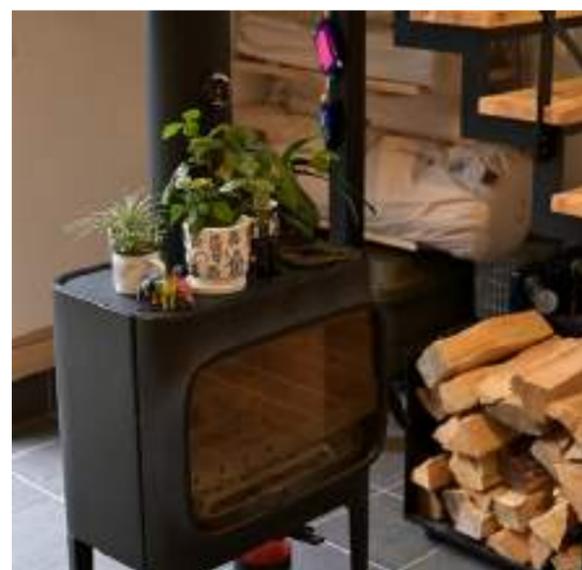
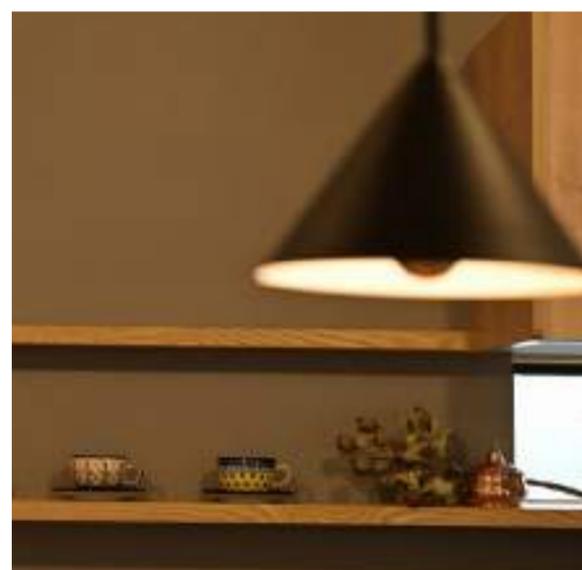
INDUSTRIAL MANISHな 雰囲気漂う家

諏訪市 S様邸



リビングから見上げた開放感の中に、薪ストーブやアイアンのブラックが映えるインテリア。

ひとつひとつ自分たちで吟味する楽しさと、それに囲まれて暮らす幸せ。



竣工 2020年12月
敷地面積 128㎡ (38.9坪)
延床面積 110㎡ (33.3坪)
家族構成 夫婦・息子さん2人

owner's voice

住宅公園のイベントがきっかけで工房信州の家展示場を訪れました。最新の税制優遇や、土地の活用方法など相談するうちに、建て替えるなら今進めた方がメリットが高いと分かりました。

プランの提案をもらった時、伝えた要望が見事に反映されていて、とてもワクワクしたことを覚えています。特に気に入っているのが、リビングとひとつながりの土間サロン。ちょうど良い段差で、腰かけられる場所になるのが良いです。子供たちは土間サロンでお絵かきをしたり、ウッドデッキと行ったり来たり、自由に走り回っています。

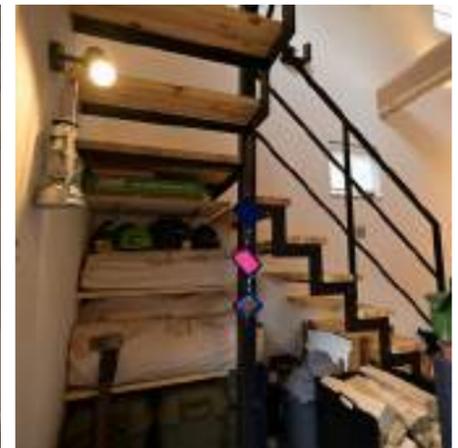
工事中には、土間にビー玉を埋め込んだり、ペンダント照明や時計を手作りしたり、思い入れが詰まった住まいになりました。また、住まいに合わせて小物や家電を吟味するようになり、買い物でも迷うことが減りました。自分たちで選んだものに囲まれて暮らせるのは、とても満足感があります。



モノトーンをベースにまとめた外観に、鮮やかな赤色の玄関ドアが個性的なファサード。限られた敷地の中で、開放的で遊び心のある室内空間と、道路からの視線を程よくさえぎる配置計画。



2階の共有スペースは、吹き抜けに面した部分を、一面本棚に。背板をアイアンにしたことで開放感を演出。（左）グレーのアクセントウォールに飾り棚が映えるキッチンダイニング。天井から吊るされたドライスワッグやガラスのペンダント照明は、家族手作りの愛着ある品。（右）



約1畳のシューズクローゼットですっきりとした玄関。天井は、無節の杉板張り。（左）ブラックを基調とした脱衣室とバスルーム。家電もインテリアに合わせて吟味することで、統一感がでる。（中央）階段下はアウトドア用品や薪グッズを置けるオープンな収納空間。汚れを気にせずタフに使える。（右）

05

趣味を思いきり楽しむ！ DJブースのある家

塩尻市 K様邸



とことんこだわって作った念願のDJブース。
自分が趣味を満喫するための空間のはずが、
気付くと子供たちと一緒に楽しんでいる。
ここに立つと、つくって良かった、と心から思う。

竣工 2018年10月
敷地面積 503㎡ (152坪)
延床面積 169㎡ (51坪)
家族構成 夫婦・娘さん2人、両親





手入れの行き届いた芝生の庭は子どもたちも大好きな場所。土間サロンとつながり中も外も自由に走り回ることができる。(上)
 キッチン正面壁はタイル貼り仕上げ。カウンターで朝食をとったりお茶を飲むことも。照明の間に下がるドライスワッグは奥様手作り。(下)



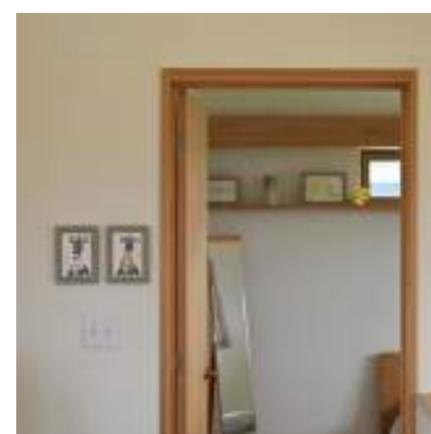
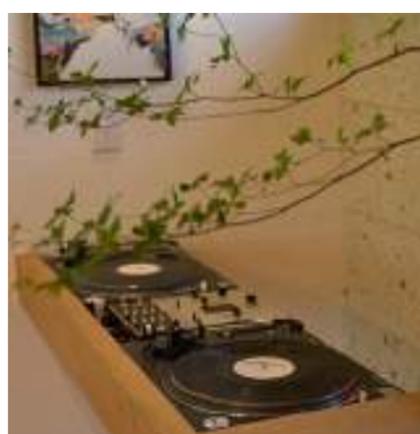
二世帯共有玄関には6人分の靴が収納できるよう大容量のシューズクロークを設けた。(上)
 洗面コーナー入口の垂れ壁は家型に。(下)

owner's voice

家を建てる時には実家に戻ろうと決めていました。二世帯住宅＝上下階分離だと思っていたのですが、諏訪展示場の二世帯がヨコにつながる設計を見た時に衝撃を受けました。既存の建物をどの程度残すか、どのくらい分離するかなど悩むことはたくさんありましたが、「既存の離れを残した左右分離」プランは、家族みんなにベストな二世帯住宅になったと思います。

植物を飾れるところがたくさんできたので、鉢植えを買い集めたり、ドライスワッグを手作りしたり、緑を増やすことが新たな趣味になりました。築三年目ではありますが、子育てはまだ現在進行中です。

階段下に設けたDJブースが一番こだわって作ったお気に入りの場所。専用のスペースを設けたことで機材もちゃんと置いて日常生活にも邪魔にならないし、照明や配線など細かいところまで打ち合わせて決めたので使い勝手もバツグンです。アパートでは中々できませんでしたが、やりたいときにいつでもできる、というのが一番うれしいことです。



階段下のDJブース。壁は大谷石張りとし空間を引き締めた格好いいデザイン。(左)

06

本棚が家族の物語になる家

長野市 S様邸



リビング壁一面の本棚は、
時を経て成長していく、家族一人ひとりの心の姿見。
引渡しが家の「完成」ではなく、時間をかけてゆっくりと、
自分たちの色になるのを愉しむ住まい。

竣工 2021年3月
敷地面積 350.8㎡ (105.9坪)
延床面積 114.2㎡ (34.5坪)
家族構成 夫婦・息子さん・娘さん





リビングと土間サロンとの間も仕切らず、程よい段差で連ねる。両方の空間に一体感が生まれ、より広々使える。(上) 敷地の傾斜に合わせて、リビングより一段高い小上がりを設けた。視線の抜けも良いし、目線の変化も面白い。(下)



キッチンには、ダイニングテーブルも兼ねたL字のカウンターを計画。視線が自然と合うように、キッチン側は一段下げた。

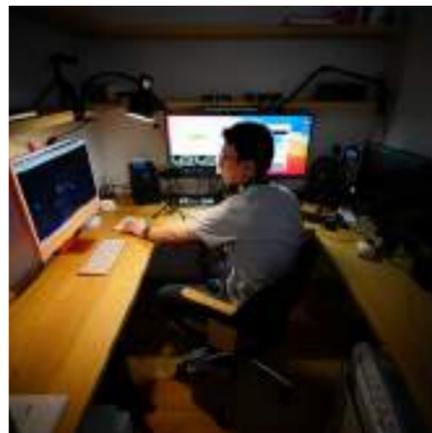
owner's voice

仕事の都合で、長野市から動くことはもうないだろうと、家づくりを進めることに。

展示場のナチュラルな雰囲気が高く、信州の自然の中で庭や畑をつくり、子育てをするのにぴったりだと思い願うことにしました。

一番のこだわりは、何とんでも、西側の壁一面の本棚です。子供たちが気軽に本に触れられる家にしたかったので、思い切って壁全体に計画。吹き抜け分は2階部分まで続くようにしてもらいました。月に一度、家族全員で書店に行き、好きな本を選んでいますが、まだまだ埋まりません。

慌てて埋めてしまうのももったいないし、最初から並べつくすのもつまらない。家族の成長と共に、時を経ながら変わっていくことを愉しみに暮らしていきたいと思えます。



リモートワーク用の書斎。2畳分の部屋をぐるりと囲むコの字型カウンター。(左) 選木ツアーの切株を玄関棚に。(右)

07

Barのある家_平屋

上田市 M様邸



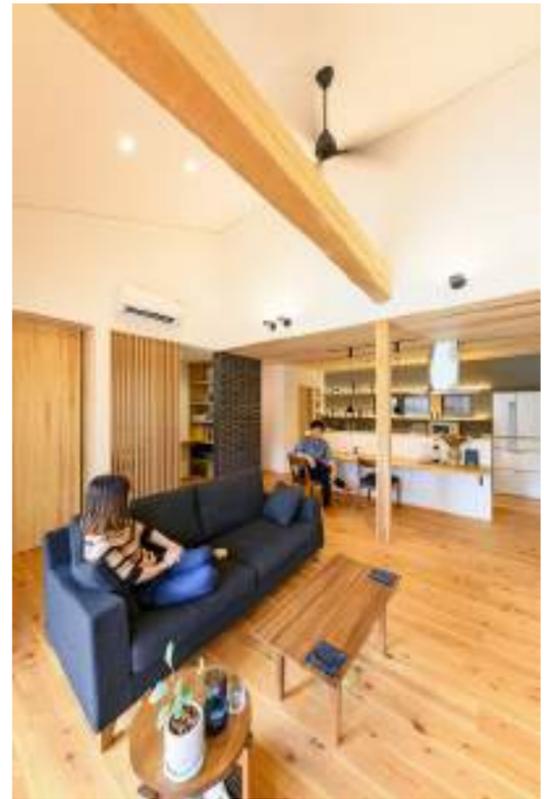
お気に入りのクラフトジンが並ぶBarのような住まい。
こだわりの空間を眺めながら飲む至福の時間。
夫婦だけの楽しみは、気付くと仲間を招く楽しみに。

竣工 2022年12月
敷地面積 317㎡ (96坪)
延床面積 112㎡ (34坪)
家族構成 夫婦





南に葺き下ろす片流れ屋根と2台分のカーポートが特徴的な外観。道路側の窓を絞ったことで、外壁の塗の質感が引き立つ。(上) ウッドデッキで過ごすことも多い。3時間かけて燻製したり、BBQも楽しむ。朝起きて一番にウッドデッキに出て庭を眺めるのが日課。(下)



キッチンの落ち着いた空間と対照的に、リビングは光もたっぷり入る明るい空間。(上) ご主人の書斎は縦格子でリビングとほどよく区切った。(下)

owner's voice

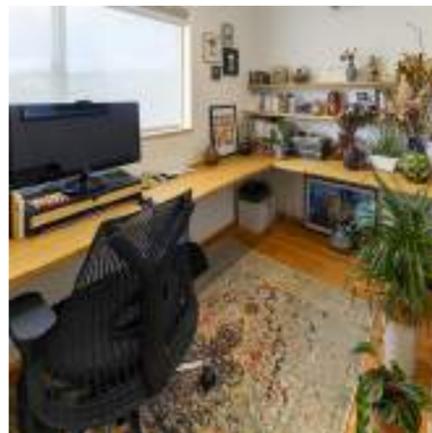
一生に一度の家づくりは、自分たちが満足いくデザインの家にしたい、と思っていました。

私たちはジンやウイスキーなどおいしいお酒をじっくり味わうのが好きで、Barのような雰囲気のあるキッチンを目指し、ひきずり仕上げの塗壁に、お気に入りのボトルを並べる棚、そこに間接照明を計画しました。

2人で料理をしたり、お酒を飲む時間を大切にするのと同じくらい、1人の時間に没頭できる空間づくりも重視しました。夫は縦格子でリビングとゆるくつながる書斎に。私は好きなものに囲まれる自分だけの個室書斎に。夫婦それぞれの個性ある空間ができたと思います。

我が家の象徴のようなキッチン空間は、その眺めをつまみに飲めるほど気に入っています。

ただ、自分たちで楽しむ以上に家に来てくれた人にもこの時間を味わってもらいたい、最近そんな気持ちが湧いてきているのは大きな変化かな、と思います。



奥様の書斎は個室にした。好きなものに囲まれる自分だけの空間。(左) シンプルなデザインの玄関も、ペンダントライトで個性的な印象に。(右)

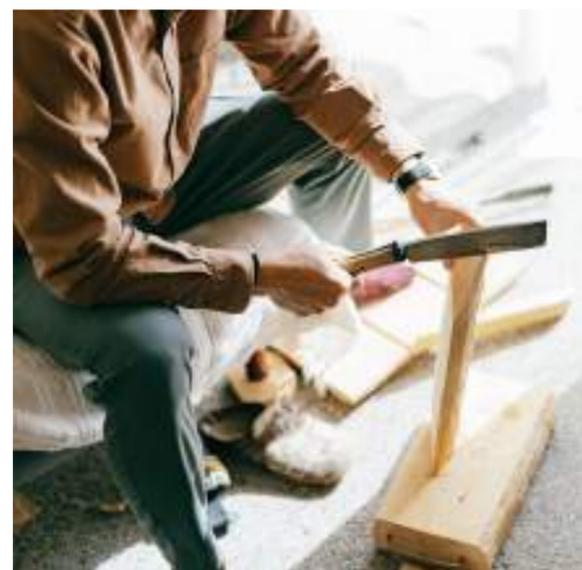
08

こちゃんまりと、 住みながらつくっていく家

木祖村 H様邸

完成した家じゃつまらないと、
たくさん余白を残した家づくり。

あれもこれも、やりたいことが尽きず忙しい日々が、
自分たちらしく幸せ。



竣工 2020年3月
敷地面積 1330㎡ (402坪)
延床面積 83㎡ (25坪)
家族構成 夫婦

owner's voice

家業の製材所を継ぐために実家のある木祖村へ戻るのがきっかけで、家づくりを考え始めました。工房信州の家は自由設計で好きな間取りにできる点が魅力的でした。自分たちで何度も何度も間取りを考える時間が楽しかったですね。

家をつくる上で、最初から作りこみすぎずに、自分たちで色々手を入れたい、という思いが強くありました。サイズ感もコンパクトに、いずれ増築するくらいでも良いくらいに思っていました。日当たりよく明るい家にしたかったので、こじんまりした間取りのおかげで、家の中にあまり暗いところがないのも気に入っています。

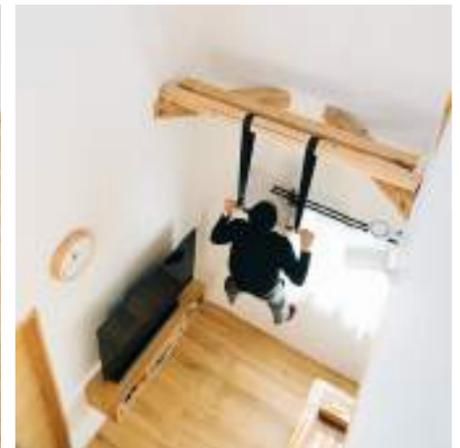
作りこみすぎなかったおかげで、家が完成してからやりたいことが尽きず、休みの日も忙しいです(笑)。2人で設計プランをつくりながら少しずつ作業を進め、徐々に色々できていく変化が楽しいですね。



土間サロンとウッドデッキがフラットにつながるので、出入りは土間サロンがメイン。大きな荷物も運びだしやすい。



キッチン前の収納棚からダイニングテーブルまで、全て2人で手作りした。サイズ感や使いやすさが抜群に良い。(左)土間サロンにソファを置いたのは最近のこと。日中は日が差しポカポカあたたかい。夜は薪ストーブでぬくぬく。気づくとずっとここでくつろいでしまう、癒しの場。(右)



この日は薪棚のDIY作業中。奥様も積極的に作業をする。2人で協力しながら、少しずつかたちになっていくのが楽しい。(左)選木ツアーで選んだ太鼓梁に手作りのブランコを設置。甥っ子や姪っ子はブランコ目当てに遊びに来るほど大人気。もちろん、たまには大人も楽しむ。(中)吹き抜けの火打ち梁はあえて2本現し、橋渡しができるようにした。トレーニング兼遊び場に。(右)

09

北アルプスを愉しむ、 ラク家事動線の家

安曇野市 M様邸



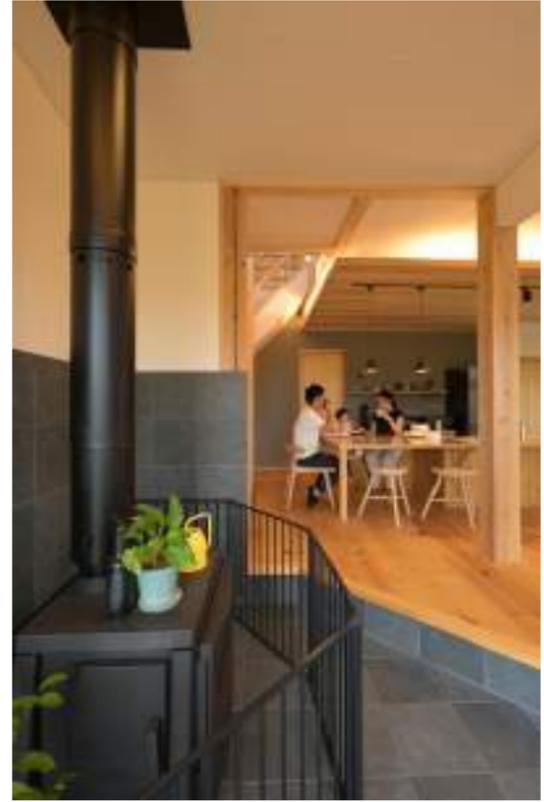
北アルプスを一望できるロケーションと、
それらを見晴らす大きな窓。
安曇野を愉しみ溶け込むように暮らすことができるのは
一方で考えつくした機能性を兼ね備えた家だから。

竣工 2022年4月
敷地面積 500㎡ (151坪)
延床面積 135㎡ (41坪)
家族構成 夫婦・娘さん





リビングは吹き抜けや土間サロンともつながり縦横に広がる。(上)
キッチン背面の棚板や食器棚は栗材で統一。家電用のコンセントも壁の色味に馴染むようグレーのものを選んだ。家電はブラックで揃え落ち着いた空間に。(下)



キッチンは一段下がりとし、カウンターに座る人と目線が合うようにした。好きなワインを愉しみながら会話が弾む。(下)

owner's voice

岡山県の実家が木と漆喰塗の薪ストーブがある家だったので、工房信州の家を建てることになんの違和感もありませんでした。以前は大阪で暮らしていたのですが、5月、主人の実家がある安曇野に連れてきてもらいました。その時見た北アルプスや田園風景が広がる景色が美しく、安曇野が気に入ってしまいました。大阪にいとあまり季節を感じないんですよね。ここは季節を目で見て肌で感じるができる。庭の草がのびるのすら良いな、と感じますね。

安曇野の景色に馴染みながら、また周りに大屋根の家が多いので地域の家とも調和する家にしたと思い、大屋根の外観にもこだわりました。家の中からも北アルプスを存分に楽しめるような窓計画や、共働きなので家事をラクにする動線や収納も重視して設計をしました。

家が完成してからは、道からの目隠しにもなる薪棚づくりに奮闘。今後はドッグランの柵をつくり犬も飼って、家族が思い切り遊べる庭づくりをしていきたいです。



土間サロンのハンモックは常設。揺られながら読書をしたり、娘さんと遊びながら過ごす。(左)
リビング一角に三方壁の畳コーナーを設けた。おもちゃが広がられていても気にならない、家事をラクにするアイデアの一つ。お昼寝やおむつ替えスペースとしても重宝する。(右)

10

山裾からの眺めを堪能する家

東御市 H様邸

雲海や夕焼け、遠くに八ヶ岳、北アルプス。
「この眺めを楽しみたい」と思いつくった大きな窓からの景色を贅沢に堪能しながら、小さな窓の先に思いがけず見える四季の移ろいに心動かされる日々。



竣工 2019年10月
敷地面積 540㎡ (163坪)
延床面積 97㎡ (29坪)
家族構成 夫婦・息子さん

owner's voice

東御市の実家は里山のふもとの、町や北アルプス、八ヶ岳の山並みを見晴らす場所。その眺めを楽しむ暮らしがしたく、実家の敷地内に建築をしました。

朝起きていちばんにすべてのカーテンを開けるのが日課。季節、時間、天気によって大きく変わる眺めを日々楽しんでいます。最初はお気に入りのレースカーテンを付けていたのですが取り払ってしまいました(笑)。我が家はこの眺めを楽しむために南西に開く暮らしを望んでいましたが、あえて絞った南面の窓から、春は桜が見えたり、デザイン重視でつくったキッチン窓から見える木々の様子から四季の変化を感じたり…。住む前には想像していなかったお気に入りポイントが発見できたことが嬉しかったです。

これからは庭をもっと育てていきたいですね。土間サロンも今はキッズスペースのように使っていますが、ゆくゆくは庭越しに景色を楽しみながらご飯を食べたり、夜景を見ながらお酒を楽しむ空間にしていくのが今から楽しみです。



手づくりのウッドデッキは家族全員が大好きな場所。気候の良い時期はお昼を食べたり、夏は日よけを張って水遊びをする。小さな庭の手入れに夢中になる時間も、贅沢に感じる。



南西方向の景色を楽しむ土間サロン。現在は板を敷きキッズスペースに。土間サロンの天井はヒノキの板張り。(左)壁を大きくとったことで落ち着くソファ配置ができる。絵などを飾れるようにピクチャーレールも計画した。(右)



家族総出でDIYをしたウッドデッキに座り景色を眺める。家族全員が大好きな場所。(左)背面の窓枠に合わせ栗材の飾り棚を。この窓から見える木々から、四季の移ろいを感じる。(中)シンプルな切妻屋根の外観。2階の階高を抑え、少しだけ軒をのびし落ち着きある佇まいに。(右)

11

ペットと楽しむ、斜め土間の家

塩尻市 A様邸



家族のリビングと土間サロンが斜めに交差し、
溶け合うような大空間。

「広がり間取り」でつながる、家族や愛犬との時間が愛おしい。

竣工 2019年9月
敷地面積 524.4㎡ (158.6坪)
延床面積 109.2㎡ (33坪)
家族構成 夫婦・息子さん・娘さん・犬





愛犬の居場所になる土間サロンは、リビングと斜めに交差し、より家族の距離が近づく。段差も抑え、いつでも気軽に触れ合える。(上) キッチン背面はアクセントウォールに。好きな食器や小物が並び、豊かな暮らしを彩る。(下)



インテリアになじむ木製キッチン。みんなで囲めるアイランド型に。(上) 階段下を書斎コーナーに有効利用。(下)

owner's voice

祖母から譲り受けた住宅でしたが、寒さと水回りの故障が気になり、リフォームするよりも建て替えを考えようと思ったのがきっかけです。愛犬の居場所も大切にしたいし、開放感のある空間にしたいなと思っていました。友人から工房信州の家を勧められ、諏訪展示場に足を運んだところ、2週間で仮契約するほどイメージにぴったりでした。

平屋もいいなと思っていたので、2階は子供室だけにし、外観の高さも抑えた計画に。1階の吹き抜けを大きく取り、開放感のある空間も実現できました。

私(ご主人)は料理が好きなので、キッチンにもこだわりました。みんなで囲めるアイランド型にして、インテリアになじむよう、木製キッチンに。タイル貼りの床は、手入れもしやすく、機能性もバッチリです。

予定していなかった薪ストーブですが、入れてみたら、料理にも大活躍でとても楽しい。

日常に楽しみがたくさん生まれて、家族で家にいる時間が増えました。



薪ストーブはすっきりとした北欧デザインが魅力のmorso。炉壁は珪藻土塗り仕上げ(左)

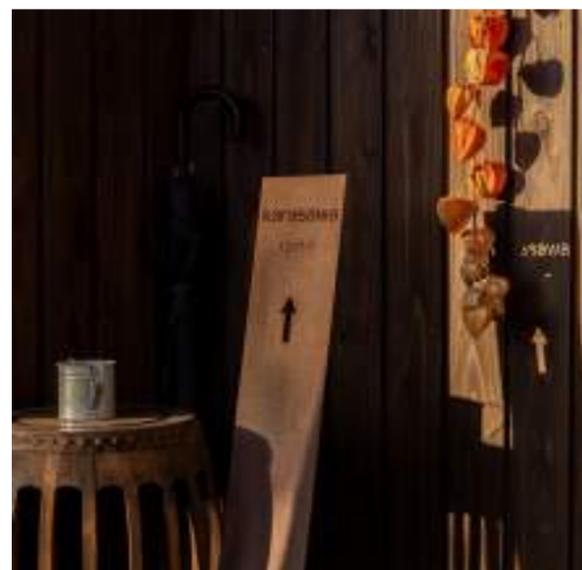
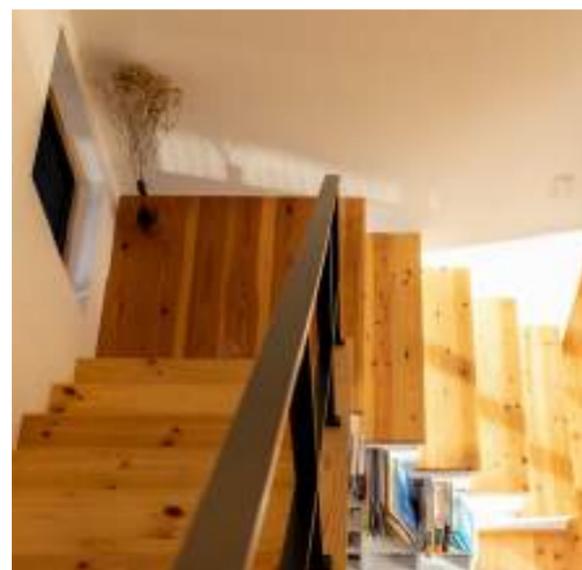
12

浅間山の山麓に佇む家

御代田町 K様邸



街中のマンションから自然の中へ移り住んだことで家族が生き生きしていることに気が付く。中と外の曖昧さを求めつくった土間サロンが、自由な暮らしを後押ししてくれている。



竣工 2022年4月
敷地面積 996.5㎡ (301坪)
延床面積 108.98㎡ (32.9坪)
家族構成 夫婦・お子さん3人

owner's voice



浅間山の稜線に沿うような片流れ屋根の外観。周りの木立に溶け込むような色使いとした。カーポートから玄関ポーチ、ウッドデッキにかかる下屋がアクセントに。

長野市の分譲マンション住まいで子育てをしていましたが、子どもたちの成長や3人目の誕生と共に手狭さを感じていました。その頃軽井沢へ転勤になったのを機に家づくりを考え始めました。夫婦ともに新潟の田舎育ちだったため、子供たちにもそんな環境でのびのびと成長してもらいたいと思いがあったんです。

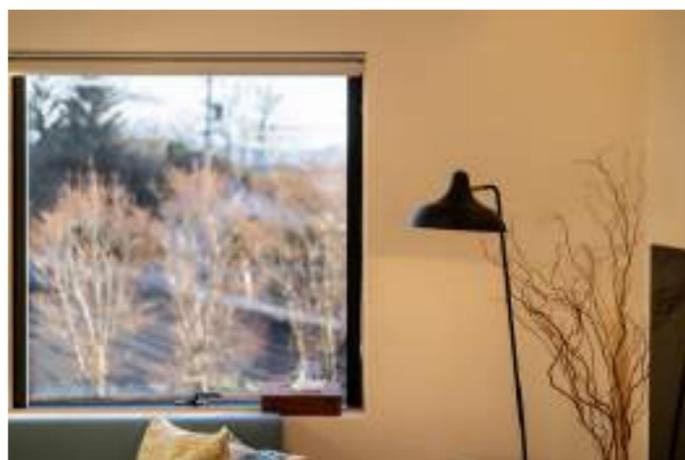
御代田の土地情報を調べている中で今の土地を見つけ、家族で見に行ったのが大きな一歩となりました。背景に浅間山の稜線がきれいに見えたり、土地の横にはナラの林の「どんぐり広場」があったことも気に入ったポイントです。

若里モデルハウスの土間とウッドデッキが繋がる間取りが好きで、気軽に中と外を行き来できるような暮らしに憧れがありました。また、薪ストーブも必須条件でしたね。おかげで今は家族みんなが家にいる時間が増え、ウッドデッキをDIYしたり、薪割り、畑づくり、草刈り、落ち葉掃きなど…自然の中に身をおきながら暮らすことが贅沢だな、と感じる毎日です。



土間サロンは子どもたちもペットも、みんなが自然と集まる場に。こだわりの薪ストーブはスキャンサームElements4003S。3面ガラスで炎が美しく楽しめる。(上)

「カラマツをアートに。」理念に惚れ込んだダイニングテーブルはアトリエm4制作のもの。(左)



洗練されたデザインの和室。オープンすぎないつくりで落ち着きを感じる。(左)窓枠はブラックを採用し、三方塗回し仕上げとした。景色を切り取る額縁のような窓がお気に入り。(中)リサイクルパレットでウッドデッキを。割れや欠けがあるのも味になって良い。ご近所の方の力も借りて完成したDIY作品。(右)

あなたの
家づくり物語を
一緒に。



www.kobo-shinshu.com

◇他にもたくさんの実例をHPで公開中！

工房信州の家



株式会社 フォレストコーポレーション

〒396-0027 長野県伊那市ますみヶ丘7352-1

- 掲載の実例に関する情報は、取材・撮影時のものです。
- 印刷のため、実物とは多少異なる場合があります。
- 掲載の写真には、一部標準仕様以外のものが含まれる場合があります。

◇SNSで動画も公開中！ follow me ♪

